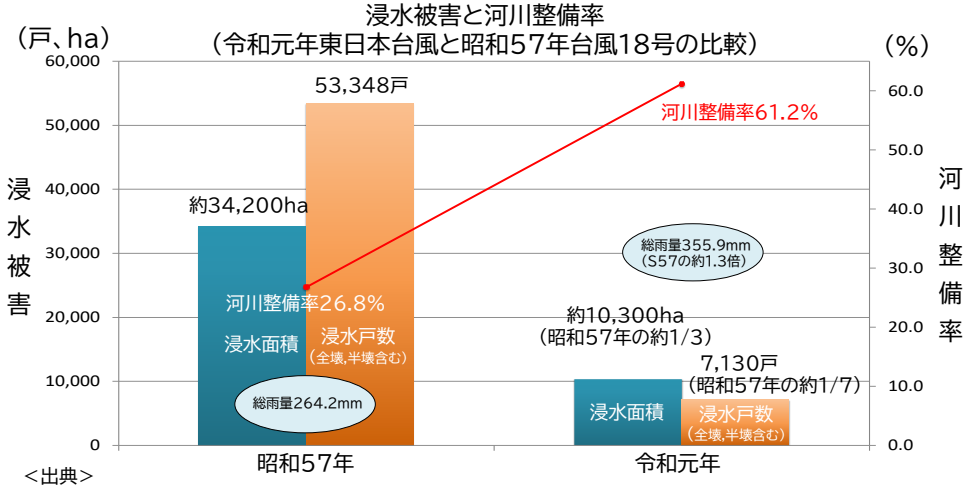
11 ハード整備やソフト対策の効果

ハード整備の効果

令和元年東日本台風の降雨量は、昭和57年台風18号の1．3倍でしたが、河川整備率向上に伴い、浸水家屋数は約1／7、浸水面積は約1／3にとどまりました。



<出典>
※１、２ 昭和57.9月台風18号水害調査報告書（埼玉県）
※３ 県が委託した測量会社が、衛星写真等から判別し、集計したもの（調節池や内水氾濫等を含む）
※４ 記者発表資料37報（埼玉県）

調節池の効果例（新方川：越谷市）

※新方川流域以外も含む

大吉調節池が整備される前、昭和57年台風18号では7，552棟※の大規模な浸水被害が発生しましたが、令和元年東日本台風の際には、内水による329棟※の浸水被害にとどまり、調節池の整備が大幅な被害軽減に寄与しています。

また、令和5年6月の梅雨前線及び台風第2号による大雨では、計画容量（40万4千㎥）満杯まで雨水が流入し、浸水被害の軽減に貢献しました。

大吉調節池（越谷市）

令和元年 東日本台風



令和5年 梅雨前線及び
台風第2号による大雨



ソフト対策の効果

警戒避難の例（川越キングス・ガーデン）

・避難確保計画を作成（平成29年）
・避難訓練の実施（毎年実施）
・避難確保計画作成の講習会に参加（平成30年11月）
・避難確保計画の見直し・提出（平成31年1月）



令和元年東日本台風では、避難確保計画及び毎年の避難訓練に基づき、迅速な避難を実施し、職員・利用者全員が無事避難できました。



東日本台風時の川越キングス・ガーデンの対応

12日 10時頃	重篤者の移動、避難のための準備を開始 職員24人待機、水位・雨量情報収集
13日 2時頃	避難開始、川越市に避難開始の報告
氾濫	川越市より越辺川破堤の情報提供
13日 4時頃	避難完了、川越市へ報告
13日 夕方	警察等により、近傍の避難所へ全員避難





出典：国土交通省資料から河川砂防課作成